

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素を生産し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌を病原体とする感染症です。感染力が強く、少ない菌数（約 100 個）でも感染するのが特徴で、例年、夏場に増加する傾向があります。

症状

- ◆ 症状は、全く症状がない方から、重症の方まで様々です。
- ◆ 多くの場合は、おおよそ3～8日の潜伏期において頻回の水様便で発病します。さらに激しい腹痛を伴い、まもなく著しい血便となることがあります。発熱はあっても、多くは一過性です。
- ◆ 発症者の6～7%の人が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こし、時には死亡することもあります。
- ◆ 乳幼児や高齢者など抵抗力の弱い人は症状が重くなりやすく死亡率も高くなりますので、注意が必要です。

感染経路

- ◆ 菌に汚染された飲食物からの感染
 - 主な感染原因は、レバーやユッケなどの生肉や加熱不十分な食肉等があります。
- ◆ 感染者からの二次感染
 - 感染者の糞便で汚染されたものを触った手や物が口に入ることにより起こります。
- ◆ 動物との接触による感染する事例も知られています。

予防対策

- ◆ 食中毒の一般的な予防方法（食中毒予防の三原則：清潔、迅速、加熱または冷却）を守りましょう。
- ◆ レバーなどの食肉を生で食べることは控え、牛タタキやバーベキューの際の加熱不十分な食肉を特に乳幼児やお年寄りには食べさせないようにしましょう。
- ◆ 二次感染の予防も大切です。
 - トイレの後や食事の前には手洗いを徹底させましょう。
 - トイレや手洗い器については定期的に、下痢や嘔吐などがあった場合にはその都度洗浄、消毒（ハイター等の塩素系漂白剤可）を徹底しましょう。
 - 患者の糞便を処理する時には、ゴム手袋を使用する等衛生的に処理してください。また、患者の糞便に触れた時には、洗剤で充分洗浄した後、70%アルコール等で消毒してください。
 - 患者や保菌者の便で汚染した衣類、寝具、おむつは、塩素系漂白剤にひたしてから洗濯しましょう。
- ◆ 万一、家族やご自分が激しい下痢、出血を伴う下痢を生じた場合には
 - ただちにかかりつけの医師の診察を受け、その指示に従ってください。特に乳幼児等やお年寄り等は注意してください。

【関連リンク】

- ◆ 厚生労働省 HP「腸管出血性大腸菌Q & A」
http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q_a/
- ◆ 国立感染症研究所 感染症疫学センターHP「腸管出血性大腸菌感染症とは」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>